



2022年度 町田第一地区 市政懇談会

次 第

[日時] 2022年11月9日 (水) 18:30~20:00

[場所] 文学館大会議室

司会進行： 市民協働推進担当部長 大貫 一夫
町田第一地区町内会・自治会連合会 副会長 飯田 高信

○ 連合会長の挨拶

町田第一地区町内会・自治会連合会 会長 平本 勝哉

○ 市長の挨拶

町田市長 石坂 丈一

○ 職員の紹介

○ 市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 町田第一地区の道路計画について

【道路部】

2 文学館通りの無電柱化について

【道路部】

3 町田第一地区の公共施設再編について

【政策経営部】

【地域福祉部】

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

○ 閉会の挨拶

閉会挨拶 町田第一地区町内会・自治会連合会 古木 一男

2022年度 町田第一地区 市政懇談会
議事録(要旨)

[日 時] 2022年11月9日(水) 18:30～20:00

[場 所] 町田市民文学館 大会議室

[出席者] 町田市長 石坂 丈一

政策経営部長 神蔵 重徳

道路部長 萩野 功一

地域福祉部長 中村 哲也

市民部市民協働推進担当部長 大貫 一夫

町田第一地区町内会・自治会連合会長 ほか27名

事務局 市民部市民協働推進課 5名

司会進行：市民協働推進担当部長

町田第一地区町内会・自治会連合会副会長

○町田第一地区町内会・自治会連合会長の挨拶

○市長の挨拶

○職員の紹介

○市政懇談会について

第1部 地域の議題に関する意見交換

1 町田第一地区の道路計画について

町田第一地区の都市計画道路の整備は長年の懸案となっています。中心市街地の道路整備は商都町田のさらなる発展、将来のモノレールの導入、防火防災の観点からも早急な整備が求められます。

昨年の市政懇談会では原町田大通りの延伸についてお聞かせいただきました。本年は原町田3丁目から原町田1丁目を抜け、相模原方面に延伸する町田3・3・7号線について現状と今後の整備の見通しについてお聞かせください。

【回答】

道路部長

議題1の町田第一地区の道路計画についてお答えします。

原町田橋交差点から原町田一丁目を抜けて、相模原方面に延伸する町田都市計画道路3・3・7号は、2016年3月に策定した「東京における都市計画道路の整備方針」いわゆる「第四次事業化計画」におきまして、東京都施行に

より2025年度までに優先的に整備すべき路線として位置づけております。

現在、事業主体となる東京都では、都県境で生じている都市計画道路の線形のズレを解消するために、接続先である相模原市や交通管理者である警視庁と協議、調整を進めていると伺っております。

また、相模原市におきましても、2022年3月に策定した「相模原市新道路整備計画」におきまして、町田都市計画道路3・3・7号に接続する相模原都市計画道路3・4・3号を、優先整備検討箇所を選定し、関係機関との協議、調整が完了次第整備を推進する路線として位置づけております。

町田市といたしましては、町田都市計画道路3・3・7号は都県境を結び、かつ、中心市街地に至る重要な路線と考えており、引き続き、早期事業着手を東京都及び相模原市に働きかけてまいります。

《質疑》

原町田四丁目第二地区街づくりの会

今、勝楽寺の前の道から相模原に抜ける道の計画を推進されるということ非常に嬉しく思います。問題は町田街道から高ヶ坂へ抜ける道が中途半端になっていて、これについて昔東京都にお願いしましたが、計画から外しましたと言われました。その後も変わってないでしょうか。

道路部長

町田街道から高ヶ坂というと、勝楽寺の脇の通りでしょうか。ここの部分は優先整備路線として事業化計画には位置付けられておりません。この計画は、25年度までに優先的に整備する路線を決めた計画です。26年度に計画を見直しますが、現在計画している路線の進捗状況を見ながら、新たに追加すべきものは追加し、据え置くものも出てくることをご理解ください。

2 文学館通りの無電柱化について

文学館通りの整備は長年の懸案となっています。現在、無電柱化も含めて整備が計画されていると伺いました。文学館通りの整備についてお聞かせください。

【回答】

道路部長

議題2の文学館通りの無電柱化についてお答えします。

文学館通りは、町田街道から原町田中央通りまでの区間におきまして、無電柱化と歩道の幅員を広げる計画を進めております。併せて、町田街道からサウスフロントタワーの北側、12m道路の交差点までの区間につきましては、町

田街道からバスターミナル方向への一方通行にする予定でございます。

計画の詳細についてでございますが、町田街道からサウスフロントタワー北側交差点までの区間では、歩道を1.5mから2.5mに広げ、車道を6.5mから4.5mへと狭め、相互通行から一方通行へと変更いたします。

その南側のサウスフロントタワー北側交差点から原町田中央通りまでの区間につきましては、歩道を1.5mから2.0mに広げ、車道を相互通行のまま6.5mから5.5mへ狭める予定でございます。

進捗状況でございますが、2021年度までは、原町田四丁目第二地区街づくりの会や文学館通り商店会と整備計画について意見交換を続けてまいりました。

また、一方通行にすることにつきましては、地権者から概ね同意をいただくことができましたので、今年度(2022年度)から、測量と無電柱化に向けた概略の設計、埋設物調査などに着手いたしました。

今後につきましては、設計や埋設物の移設等を進め、2025年度の工事着手を目指してまいります。

《質疑》

原町田四丁目第二地区街づくりの会

文学館通りの歩道拡幅につきましては、地域の20年来の念願でございました。今は道路部長から大変力強いお言葉をいただきまして、本当に感謝いたしております。何とか実現の方向へ向けて、うまく進めていければと思っております。これによって中心市街地から芹ヶ谷公園までの回遊性が一段と良くなるということと、それから中央商店街に準ずる新しい商業区域として脚光を浴びるのではないかとということで、地域で非常に期待していますのでよろしく願います。

道路部長

ここの通りは、皆様と20年くらい前から話し合いを行ってきたと思えます。ようやくここで一方通行化の目途がついてきましたので進めてまいります。無電柱化することによって、景観的にもかなり変わってくると思えます。沿道の皆様方におかれましては、街づくりに寄与していただけるように、ご協力いただければと思っております。

原町田四丁目第二町会

工程など日程がわかりましたら教えてください。

道路部長

先ほど申しました25年度に工事着手できるよう目指しておりますが、まだ

不確定な部分もあります。これは今考えているスケジュールとして聞いていただきたいのですが、工事を着手してから最終的に無電柱化を含め、全部終わるまでの期間は5年程度を考えております。29年度くらいの完了を目指しております。

原町田四丁目第二町会

町内会のいろいろな人たちが文学館通りについて、ずっと長く市役所といろんな話をしていって、やっと実現が見えてきたというところですが、ただ、まだまだ細かいところがいろいろとあります。道路の段差や高低差が交差点部分でまちまちで、版画館へ行く通路で、版画館ができたときに歩道上に版画館のタイルが入れてあります。今も4ヶ所か5ヶ所くらい残っています。

先ほど地域の回遊性という話をしていましたが、いわゆる商店街から版画美術館、芹ヶ谷公園へ向かっていくルート、中央通りとそれから原町田大通りについては、そこから帰って来る時に行く道でも帰り道でもどちらでもかまいませんが、うまく回遊して行くところのルートの一つになるように考えていただいて、設計の中に加えていただけると非常にありがたいなと思っているのでよろしくご検討お願いいたします。

道路部長

今後どのようにしていくかということを含めて、地元の皆さんの意見を伺いたいと思っています。単純に無電柱化して普通に黒い舗装というわけではないので、景観や街づくりの観点からも重要な路線と考えております。また、回遊性については、さまざまな場面でご意見を頂戴できればと考えておりますので、引き続きよろしくようお願いいたします。

原町田六丁目若葉会

商店街の方から版画美術館の方に回遊性をという話で、一方通行についても理解できますが、その版画美術館の町田街道の信号のところ、そこから先版画美術館に向かうところの道が非常に狭いです。そこが交互通行で人が通ると車がすれ違えないぐらい非常に危険を感じていますので、その部分については、例えば一方通行化するとか、何か計画はございますか。

道路部長

町田街道の北側の部分について、現在何かするという計画自体はございません。一方通行が望ましいということは重々理解できます。しかし、一方通行は少しハードルが高くて、この文学館通りを一方通行にするにも相当な年数を費やしました。何が一番大変かと申しますと、沿道の方の承諾です。住んでいる方も全て一方通行になります。住んでいるから相互通行可能ということはありません。

ませんので、その辺も踏まえて地域で一方通行化がまとまった段階で市にご相談いただければ、警察にご相談をしてみたいと思います。

原町田四丁目第二町会

お願いになるかもしれませんが、文学館通りは文化薫る通りと私たちは考えていました。そこでその通りの脇をお店などが多く入ってもらえればという願いがあります。それは私たちがどうこうできるものでもないのですが、そういうことは行政でできることがあるのでしょうか。

道路部長

こちらの通り沿いは、商業地域になっているかと思いますが、商業地域は、だいたいの用途のものを建てることのできる状況になっています。一戸建ての通常の家屋も建てられますし、もちろん賑わいを創出するお店も建てることできます。ただ、これを都市計画の中などで、家は建てられませんといった縛りまでは厳しいと思っています。沿道の方にはできたら、これは我々の希望になりますが、賑わいの施設や景観に配慮したものを建てていただくことを望んでいます。

原町田四丁目第二地区街づくりの会

現在、三丁目側の方にマンションが一つ建設予定になっております。あと二つくらい建設されそうですが、その説明会の時に少なくとも沿道に面した一階部分にはユニークな商店を誘致するようにしないと、なかなか街が活性化しないと思いますのでご提案しますが、やはり施主さんのご都合もあってなかなか実現しません。市として何か、例えば助成などをして若い方たちが出店できるような工夫とか、そういうことを考えていただいて、中心市街地とは少し変わった新しいスタイルの商店形成をしていただければ、なお町田市全体としてのポテンシャルが上がると思いますので、是非工夫していただきたいと思えます。

政策経営部長

商店街の活性化の話になると思いますが、最近聞いた話では、北九州市の小倉で地域の活性化を目的として、古い街並みのリノベーションを行っています。建物のワンフロア、一階部分をリノベーション会社が貸し切って個別に小分けにして、スタートアップの企業など地域の目的に合ったお店を誘致する活動をしている都市もあります。このようなことを参考に、今後町田市でも、これから文学館通りだけではなく中心市街地の中においても考えていきたいと思っています。どういう街並みにしていくのか、単純に経済的な利益優先だけではなくて、どういう形であれば地域の目標に合ってくるのかなどを地域の

方々と一緒に考えていかなければいけないなという認識であります。ただ、今ここですぐに何かができるかというところではございませんが、いろんな成功事例を見ながら勉強しているところでございます。これからまた地元の商店街の方々とお話をしていく機会が増えてくると思いますので、その際にはご協力のほどよろしくお願いいたします。

まずは店舗のオーナーさんや、建物や土地をお持ちの方々と街に対する共通の目標・意識を作り上げていきたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

3 町田第一地区の公共施設再編について

町田第一地区には健康福祉会館、せりがや会館などの公共施設があります。公共施設再編により健康福祉会館は中町保健所庁舎と2030年度に集約、せりがや会館は2026年度までに一部機能を他施設へ移転し、使用ができなくなると聞いています。

現在、町内会・自治会をはじめ様々な団体が利用しています。公共施設再編計画では公共施設の機能についてどのように考えているのかお聞かせください。

【回答】

政策経営部長

初めに、健康福祉会館と保健所中町庁舎の集約について、お答えいたします。

ただいま会長からお話しいただきましたとおり、現在の「健康福祉会館」の場所へ2030年度に集約することを、今年、2022年3月に策定いたしました『町田市町田駅周辺公共施設再編構想』において、一旦お示ししましたが、その後、児童福祉法等の改正があり、再編構想でお示した内容を見直しております。

法改正の主な内容として、「健康福祉会館」で提供している、妊産婦の相談機能や乳幼児の健診などの母子保健の機能と、本庁舎の「子ども家庭支援センター」などが担っている子育て支援に関する機能を併せ持つ「こども家庭センター」の設置が義務付けられました。

また、この「こども家庭センター」は、他にも、不登校・いじめ相談や障がい児支援など、町田市でいうと、教育センターや子ども発達センターなどでございますが、そうした機能とも連携を図るよう国から示されています。

そこで、町田市では、この「こども家庭センター」に相当する機能を、境川団地地区にある「教育センター」（旧忠生第四小学校）に建設を予定している新たな複合施設に集約することを考えております。

この様に「健康福祉会館」から母子保健機能を移転させることから、「健康福祉会館」と「保健所中町庁舎」の集約についても見直しが必要となりました。

まずは、2年後の2024年度に予定している集約する施設の『整備基本計画』の策定に向けて、引き続き検討を進めてまいります。

地域福祉部長

次に、せりがや会館についてお答えいたします。

公共施設再編計画では、せりがや会館は「2026年度をもって、必要な一部機能を他施設に移転し、建物は建替えない」という市の方針を示しております。その後の建物の利用につきましては、公共施設再編計画でお示した内容以外、現在決まっておりません。

また、会館を利用している団体には、2022年5月25日に開催されました「せりがや会館利用団体連絡会」において、その方針をお伝えするとともに、利用団体の各所管課においても順次ご説明をさせていただき、ご意見を伺っているところでございます。

必要な一部機能の考え方としましては、市の委託事業や補助事業などがまずは考えられます。例えば、町田市社会福祉協議会が市の補助事業として実施しています「福祉輸送共同配車センター事業」などが考えられますが、その他の事業におきましても個々の団体の活動状況に応じて、必要な機能を判断してまいります。

今後、利用団体のご意見を伺いながら丁寧に調整してまいります。

《質疑》

原町田五丁目町内会

原町田第一地区の公共施設再編についてということで、健康福祉会館、せりがや会館はこれからということなので推移を見守りたいなと思います。町田市で公共事業再編の構想に基づくと、原町田地区にはAの計画で芹ヶ谷公園の中の版画美術館と工芸美術館の再編が謳われています。それについてもう着々と進んでいるようですが、この構想書によるとこういうことをやる位置づけとして「町田第一地区周辺に住んでいるエリアの方々への動きをまとめることで、地域に関わる市民の皆さんや民間事業者の方々との共通理解を深めて、みんなで公共施設の再編を進めていくプロジェクトと位置付けています」とはっきり書いてあります。今進められている工芸美術館の再編については、町田市の方では、民間並びに市民の皆さんとはこの共通理解が深まっているとご認識なのかどうかをお答えください。

(司会) 原町田二丁目町内会

担当が本日来ておりませんので、お答えできないということです。

原町田五丁目町内会

担当は公園の関係かと思いますが、町田市長がこの再編計画の進め方はこの構想の中で公共施設再編の基本的な位置づけということで、地域の住民の人たちと理解を深めるという方針で定めていらっしゃると思います。今回はこの計画について、ちゃんとその手続きを踏まれているのかというのが、私の質問でございます。

政策経営部長

プロジェクト自体は文化振興や公園の担当が地元の方々とお話をしているところでございます。これまでも説明会を開催し、ご質問いただいた方には、個別に伺ってご理解をいただくように努めているところでございます。そういった働きかけをしながらプロジェクトを進めております。

その計画を作るときの段階におきましても、その前の2016年からこの公共施設の再編という建付けの中で学識者や市民団体の代表、公募市民による委員会を設置しています。あとはアンケートや市民説明会などを経て、この公共施設再編計画というものを策定しております。

それから事業の実施につきましては、先ほどご説明したように、それぞれの担当部署で、鋭意進めていると理解しております。

原町田五丁目町内会

個別で対応されていることも聞いておりますが、近隣の方々はこの計画に対してあまり納得できていないので、皆さんの理解を深めるということに対して説明会をしてください。報告会でなく一方的なものではない説明会、意見交換させてくださいと4回ほど要望書を出していますが、無視をされているという状況であることを是非ご理解いただいて、このまま進めていただくことは納得できないということを伝えていきたいと思っております。

政策経営部長

それはこれからも担当部局とお話をさせていただくことだと思っております。今現在ご質問いただいた方には個別にお伺いしていると聞いております。2021年3月の報告会以降、21年5月に説明会を開催しています。それ以降にも今年の5月にも説明会を開いていると聞いております。それ以外にも、個別にお伺いしていることも含めまして、説明をしていることについてはご理解いただければと思っております。

原町田四丁目第二町会

最近工芸美術館の建設というお知らせの看板が立ちました。地域の住民たちがとても当惑しています。ここで市長にお願いしたいのですが、この建設場所をもう一回考え直していただけないでしょうか。これはやっぱり大きな40億円という血税が注がれるものですから、私たちにとっては他人事ではありません。また、私自身は60年前から親しんでいますけど、実際には100年を超える森です。その森を崩すと、私たちも鳥の声を楽しんだり遊んだりすることもできません。もう一回再生するという場合も、また100年ばかりかかります。無理をしてあの崖のふちに建てるのではなくて、もう一度もっと容易にできる場所に建てて、血税を半分にさせていただきたいです。

町田市長

担当がいないので私がお答えします。2011年3月、今を遡ること11年半前。この工芸美術館に建設をする前の、つまり博物館をどうするかという議論の審議会を行いました。その年に報告書が出ております。その審議会の先生である鎌倉国宝館の館長さんと前の山梨県立美術館の館長さんと、あと何名かとで、どうするかという審議会がありました。あそこが交通不便であるため、お客さんが見込めないという認識が書いてあります。

審議会の先生の受け売りですが、博物館は基本的に3つの機能を持っています。まず歴史系があります。それからガラスや陶磁器とかの工芸美術系。そして民俗歴史系という3つある中を、全部この場所からどこかへ引っ越すではなく、分離して工芸、美術については抜き出して、それを一つの機能として引っ越しをさせる。考古学あるいは歴史などについても別のところで機能を果しましょうとしました。町田市では通史と言って、縄文から全部についての歴史博物館ないし歴史を扱っている館がありません。例えば、自由民権資料館のように一部分歴史を切り取ったものはあります。最終的に工芸については、ここではない所に建てましょうということがこの時の結論です。

この結論の中で一番重要なのは、本町田にお客さんが来てないということです。これは交通の便が非常に悪いと、大きな要素であるためはっきり書いてあります。逆に言えば、もっと交通の便の良いところに引っ越しましょうということが2011年3月のあり方構想検討委員会の結論です。その後どうしたかということ、中心市街地に近い所を探したということが行政の話です。最終的に芹ヶ谷公園の中、版画美術館の側に作りましょうという結論を出しました。その結論のもとに、どういう工芸系の美術館を作ったらいいのかということになり、いわゆるコンペを行いました。

2008年の頃、事業仕分けという単語を覚えているかと思います。民主党政権の時に行われました。私ども町田市も事業仕分けを行いました。それで博物館は廃止すべきという結論にその事業仕分けでなりました。移転ではなく廃

止すべきとなりました。事業仕分けの委員会は廃止という結論でしたが、それを受けた私はいくらなんでも廃止はできない、これは移転だと事業仕分けの結果と違う方向で、工芸の美術館を中心市街地に近い所に持ってこようと判断しました。それからまた学識経験者の考え方などいろいろなものを経て新しい博物館の基本構想を作ったのが2012年です。基本構想を作って2014年に基本計画を行った時に、工芸美術館基本計画というので立地は芹ヶ谷公園の中と決めました。それが2011年の結論の3年後に、町田市としてそういうものを作りました。その後翌年に、建築というプロポーザルを行い、シーラカンスという会社に決定しました。シーラカンスの方から色々なアイデアを出していただき、2015年9月から住民説明会、市民説明会を行いました。2015年9月26日、9月29日の1回目の説明会を行いました。2回目は11月18日と11月21日。年明けて2月2日と2月6日に行いました。合計、9月から2016年2月までに6回説明会がありました。

その中で一番問題になったのは、平地に泉みたいなのが出ていて、そこから水が下に流れているルートを通った谷のところ、その泉の近くに建物が建ちます。お向かいに住宅があります。かなりこの説明会の中で、こんな近くにこんな建物が、しかも計画は上から下を見られるという計画でした。当時の議事録を見ると、見られる人にとってこれは厳しいとして圧迫感や、見られている、覗かれているとして大きな反対がありました。住民の中からこの6回の説明会の中でそういう話がありました。

結局どうなったのかというと、この工芸美術館の整備計画は2年先送りしましょうとなりました。当時どうだったかというと、実は町田第一中学校の建設計画が進んでいました。2年後に一中の整備とこの工芸美術館の整備を一緒にするのは財政的に厳しいのでどっちを先送りするのかとなりました。中学校の建て替えを先送りにはできないということで、美術館の先送りを決定して中学校を先行しました。それが2年間の延期です。その後どうしたかというと、やはりシーラカンスのデザイン、基本設計については住民の反対もあって厳しいものがあるだろうとして、後ろの山の側へシフトしない限りは、ここには立地できないだろうという結論になりました。

基本的にその平地の方に少し下がろうと考えて、もう一回やり直しました。もう一回プロポーザルをやり直しました。今度は住民説明会でも皆さんにお話をしている、オンデザインさんがそのプロポーザルで設計者に決まったということが2年後の2019年です。そこから新しいもう一回やり直した基本計画、基本設計を行っています。この経過から見てもう一回平地にという案は、案を出して住民の方から受け入れられなくて撤回した案であるため、もう一回市がそれを提案することはあり得ないということをもまずは考えていただきたいと思います。それが一つです。

その後、現在に至っているわけですが、2021年去年の段階で最終的な計

画、皆さんにはデザインブックというような言い方をしているかもしれませんが、お示しをして住民説明をしてきたということです。その間、2020年が空いています。ここはコロナで説明会ができなかった時期なので2021年3月から住民説明会を行ってきたのがこれまでの経過です。

博物館は2019年に閉館しましたが、ここは施設の老朽化が激しく、あそこはエレベーターもありませんが、バリアフリーもしていない、しかも空調設備が壊れていて途中で止まったりしました。美術館にとって空調設備は命のようなものです。これでは立て替える以外にないということで、その場所で建てられないことになると、そこに建て替えることはなく、機能しないため2019年に閉館しました。閉館した時に老朽化ということと、ここではお客さん来ませんということから今計画しているところに新築することになりました。

経過としては以上ですが、実際に今年の3月議会で地元の住民の皆さんに改めて説明会をしてくださいと要請があり、そこはしっかりやりましょうということでスタートしました。そういう意味では、説明会をやる、やらないという議論でいうと、かなり長いこと説明会をしています。そういう意味でこれから説明をやる、やらないという議論ではないと思っております。現在、そういう意味では、あの建築の計画についての手続きを進めているので、その流れの中で言えば、もうどこに作るのか、こういうのがいいとか悪いとかを議論する段階ではないというふうに思っております。今までの経過は以上です。

原町田四丁目第二町会

そこをなんとかもう一度検討していただきたいです。やっぱりそのお金のことがあります。お金を度外視したらそれでいいのですが、私たちの血税です。

原町田四丁目第二町会

2つ質問があります。一つはご説明いただいた経緯を前から知りたかったので、とても聞けてよかったです。その市立博物館の問題で、あそこに住んでいる住民たちが1万人の署名を集めて、一旦は存続するというようなことになったのに、それが取りやめになったということで、相当なショックを受けていましたが、その事情を話してもらえませんでした。当然市はそれを当然知っているはずですが、その経緯というか、どうして取り消しになったのかということを知りたいです。それをずっと思っていました。

それからもう一つは、白紙に戻すとか、考え直す気はないとおっしゃっていますが、お金の問題もありますけれども、市長は自然に関してはもっとう理解がある人だと思っていたので、とてもショックを受けました。私は芹ヶ谷の側に住んでいますが、蛾の幼虫が木に付いて、最初は5、6本でしたが増えていきます。初めて見ましたがやっぱり木が弱っています。この間、テレビでもやっていたんですが土壌が悪くなっている。要するには土壌から養分を吸うので、

そういう土壌がもうだめになっていて、雨が降っても水が下に溜まってしまし、幹はどんどん弱って健康ではないということを言っていました。そういうのを考えましても、そういうその土壌の環境が悪くなっているところに建てるというのはもう一回考えた方がいいと思います。あそこのグラウンドで皆遊びますし、自然の環境のことをとても考えてくれている市長なので、そういうところをもう一度よく土壌調査とかして、考え、見直してほしいと思います。

質問にはなりませんでしたが、市長はそういう自然環境に対して、芹ヶ谷の森を切るとか、そういう蛾の幼虫が木にこびりついて弱っているとか、そういうことをどういうふうに考えていますか。

町田市長

今議論になっている木は、多分クヌギとコナラだと思います。カシノナガキクイムシが張り付いているのはコナラ、クヌギです。東日本全体でもだいぶ広がっていますので、この芹ヶ谷に限った話ではなく、〇ごと大作戦の中でトラップを作って捕獲をしていただいております。一番学説で言われている部分は大きな木になっています。そこはかなり来ています。もともとクヌギ、コナラは、炭のための林です。基本的に大木にする木ではありません。途中で切って薪にしたり、炭にしたりして使う木です。根元のところで切っても、もう一回出てきます。そのため、大木になるって前提ではありません。これは炭を使わなくなってから、林業が、農産型の林業が廃れてしまって大木になったということが繁殖のベースになっているというふうに言われております。芹ヶ谷については、大きくなった木は間を切るという作業をしないとだめだと思います。町田市内も含めて、あちこちになっていますが、かなり皆さん目に付くのはなぜかという、かなりの大木なのです。見える木々が茶色くなっているので気が付くということです。それ以外についても、スギとかサワラとかの木もだいぶ暗くなっているので、公園緑地課ではこれを少し切って広葉樹中心の木にしようとしています。広葉樹といっても、今言ったクヌギ、コナラも広葉樹ですので、それもある程度大きいものは切っていくないと森として上手く更新ができないというのが私の考えです。

もう一つは、今お話しになった反対の話は、確か本町田の博物館を存続させましょうという請願だったと思います。これについては議会に提案が出されて、請願が採択されています。請願を採択したにもかかわらず、これを廃止するという決定したのは市です。どうしてかという、存続できないからです。請願が出てきたのは、先ほど言いました2011年のこの結論が出てきた後です。繰り返しになりますが、ここではお客様の交通不便でとても人が集められる場所ではないということと、老朽化をしましてバリアフリーでもなくて展示室も収蔵庫も小さい、これでは機能が維持できないという両方の意味で建て替えをする、あるいは中心市街地に行くという判断をしました。そのことは

もちろん議会にも説明をして了解をいただいています。つまり、採択された請願なのに、なぜ存続を守らないのだ、その採択された請願の趣旨を実行しないのだと言われました。しかし、実際にできないため、私の決断としては実際できないことを請願、採択されてもできないことはできないと申し上げました。

原町田四丁目第二町会

博物館のことを説明されました。最初の2014年にだいたい前のものが決定しました。その時は確かに説明会を8回も行いました。その後2019年、コンセプトブック、それからその次の年にデザインブックができてからの説明はありました。その前はホームページで掲載したと言っていますけれども、私達が目についたのはデザインブックができてから。美術手帳を見て初めて知ったという人もいるという状況です。もともと私たちと一緒に工芸館をこんなものにしたいなというようなところも含めて、やってなかったのではないかと私は考えています。だからまず一番問題だったのは、そのところがしっかりしてなかったから、いろんな問題が起きたのだと思います。聞いてから皆びっくりして、あんな崖地に作るのか、緑はあんなに切るのかと出てきたのは見てからです。市はいくら言ってもそのまま続けていくと進められました。住民はいろんな知恵を持っていると思います。それを生かしていかなければならなかったと思います。

今回はもう一つお願いしたいことがあります。近隣住民に建築用途制限以外の建築物の特例許可についての説明、図面、意見用紙が配布されました。これで初めて知った人もいます。近隣で初めて知ったということは私たちも悪かったのかもしれないけれども、やっぱり市が近隣の人がそういうことを知らなかったこと自体おかしいので、私のところに5名ほどこの絵が来たけどどうするという話がありました。「説明してもらわなきゃ分かんないよね」という話で、意見も書けません。やっぱり説明するしかないと思って市がやらないなら私たちがやりましょうということでやりました。皆怒っていました。それで説明会を開いてくれと4回出しています。でも説明会はいまだに開かれていません。そういうことについて、もう説明会を開いてほしいというのが、その人たちの本当に願いです。市長はそのことについて、どう考えていらっしゃるのか。僕たちはその担当の人としか話が出来ていけませんので、市長はそういう状況をどう見ているのかを聞きたいと思います。

町田市長

説明をするということと、住民の皆さんの意見を採用するということとは少しニュアンスが違います。建築審査会に諮るその前の段階の部分ですから、特例というのは審査会の了承を取らないと計画図ができないので必ず行わなければならない法律の上の手続きです。その時には今お話がありましたように、

どこに作るべきか、どんなものを作るべきかと、そういう議論になったのであればとてもできません。もう建築審査会前段に来ているわけですから、そういう意味で説明会をする、説明をするというのがわかります。それに対して反対だからどうしろという段階になったのではありえませんが、それは説明をするということにならないということも皆さんの考えだし、私どもは説明したってそれを理解していただけないのであれば説明にならない、そういうことを受け入れられないです。一番の問題は、説明会とは何だという定義です。皆さんが言っている説明会は何でしょうか。そういうことになるわけです。今から皆さんが言っている意味の説明会はできないとさっきから言っているのはそのことです。元に戻って一からやりましょうということについては、とても先ほどお話がありました受け入れられる状態ではないので、説明会をやって一からやりましょうと言われても、こちらが今度は納得できない説明会の定義だということになります。

第2部 市政全般に関する意見交換

市長からの市政報告

コロナ感染の対応というのは、最初に挨拶でお話ししたとおり皆さんのご協力でなんとかなっています。御礼申し上げたいと思います。

最初に病児保育施設です。保育園に行って熱が出てどうしようという時に、預かって頂けないでしょうかということで3か所目ができました。1か所は原町田で、もう1か所医師会先生のところで行っています。3番目は南町田の駅前にこの4月に開設いたしました。ポイントは、相模原市の市民も使える、八王子市民も使えるということで、相互乗り入れができることです。町田市民が相模原の病児保育を使えるという相互協定を結んでいるというのが今回のポイントであります。

保育所の待機児童はほとんど減りませんでした。東京都は軒並み減りましたが、町田市だけ減っていません。他の市は減っています。もうご存じかと思いますが、全国的に14歳以下の転入超過数が全国で上位が続いています。保育園にとっては、待機児童の解消には厳しい話ですが、よく考えてみると転入してくる子供たちがすごく多いということは、悪い話ではありません。ただ、待機児童の解消ができないということがポイントだと思っています。南町田に80人定員の保育所を作っていますので、11月の保育所入所申込ではここを対象にして受け付けていきます。来年の4月に待機児童75人がどこまで減るのかはわかりませんが、少しは減るのではないかと期待をしております。

児童相談所については、長らく地域の皆さんに要望をいただいております。町田市内に設置してくださいということで、東京都福祉保健局にお願いをしております。福祉保健局はもうすでに児童相談所をいくつか作ると発表していま

す。どこに作るってことはまだ発表されていません。2023年度、次の予算でどこに作るということを表明しないとイケないので、もう時間切れに近くなっていますが、そのうち私の期待としては町田に都立の児童相談所をつくるという発表になると思っています。今町田市は八王子児童相談所の人がかっちに來ています。仮に虐待の疑いということで、私どもの子ども家庭支援センターとか、児童委員の人たちから八王子の児童相談所に連絡がいった、実際に八王子から來ています。そういう意味では改善されると思っています。

子どもにやさしいまち条例というのを来年度制定しようと検討しています。子どもの権利条約を日本は批准していて、町田市には子ども憲章がありますが、それに限らず子どもにやさしいまちで政策を支える条例を作ろうと思っています。

中学校の給食センターの整備がございまして。市内に3か所センターを作ります。堺中学校と武蔵岡中学校は独自で行いますが、残りの18校の中学校を3つのセンターで供給するという計画です。今建設物価が非常に上がっていて、事業者さんが困っています。2024年の3学期に開始する可能性もありますが、全部の中学校の給食をスタートということでやっております。

高齢者の話です。高齢者特別養護老人ホームの話は、申し込みから1年以内に入所が決まるのは、10年前で45%です。今は約90%が1年以内に入所が決まっています。

多摩都市モノレールです。多摩都市モノレールは去年12月にルート選定が終わりました。今多摩市と町田市両方通っていますので、その協議会がスタートしました。まだまだ用地買収が進んでいません。

鶴川駅は今工事中で、区画整備事業をやっている。来年は川崎側の工事が始まります。鶴川駅南口の工事があつて。そこへ橋を作つてバスを入れるよう道を広げようとしています。岡上交番というところがありまして、その角のところから横浜の方の団地や緑山などそこから回つてきて、鶴川駅のあの芝溝街道の混雑しているところまでは行かないで、手前で左曲がつて芝溝街道の混雑解消しようという計画で来年工事が始まります。

芹ヶ谷公園の再整備において、公園内にエレベーターを作ることになりました。

熱回収施設は今年の1月にスタートしました。ここは東日本で初めて、皆さんが出しているごみから生ごみや紙類を分離して発酵槽に入れて、ガスを取り出しガスエンジンで電気を出します。この電気は生物由来ですから、二酸化炭素のカウントは0です。この電気は、再生可能エネルギーとして電力会社に売払っています。ごみを焼却する際に出る熱からつくれた電気は、清掃工場の中で使っているのと、鶴見川クリーンセンターに送っています。残念なことに火事になりまして、止まりました。何が止まったかというところとクレーンが止まりました。クレーンで持ち上げるごみの中にリチウムイオン電池というのがあり

まして、リチウムイオン電池は衝撃を与えると火が出るそうです。かき混ぜたりして衝撃が伝わり火事になってしまいます。それが原因と思われる炎でクレーンを制御している電気系統がやられてしまいました。半導体を使っています。そして直そうとしたら半導体がありません。6月まで動かなかったというような事故がありました。その後、7月から皆さんにご協力いただいてリチウムイオン電池など、小型充電式電池の分別をしていただいています。これをしていただかないと、収集車の中でも火事が起きていますので、この機会にお願いをしたいと思います。

最後に資源ごみ処理施設です。相原地区に25年度に稼動するということで、今スタートし仕事が始まりました。用地買収についても進める目途がつかまりました。皆さんが、出すごみは25年度になるとプラスチックを分別していただきます。横浜線から南の人は既にやっけていただいています。

《質疑》なし

○閉会の挨拶

町田第一地区町内会・自治会連合会